

全学テーマ別評価自己評価書

「教育サービス面における社会貢献」

(平成12年度着手分)

平成13年7月
豊橋技術科学大学

(豊橋技術科学大学)

1. 対象機関の現況

豊橋技術科学大学は、愛知県東三河地区にある人口約 37 万人の豊橋市に位置しており、昭和 51 年に設立された比較的若い工学系単科大学である。実践的・創造的な能力を備えた指導的技術者の養成を目指し、実践的技術の開発を主眼とした教育研究を行っている。また、当大学は大学院に重点を置いた新構想大学として設立されており、入学生の 80% を高等専門学校から 3 年次編入の形で受け入れ、残りの 1 年次入学生 20% のうち、半数を普通高校から、他の半数を工業高校から受け入れている。

豊橋技術科学大学の現況を以下に記す。

機関名	豊橋技術科学大学
所在地	愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘 1 - 1
学部構成	機械システム工学，生産システム工学，電気・電子工学，情報工学，物質工学，建設工学，知識情報工学，エコロジー工学 の 8 課程及び共通（人文・社会工学）学科

大学院工学研究科の構成

修士課程	機械システム工学，生産システム工学，電気・電子工学，情報工学，物質工学，建設工学，知識情報工学，エコロジー工学 の 8 専攻
------	--

博士後期課程	機械・構造システム工学，機能材料工学，電子・情報工学，環境・生命工学 の 4 専攻
--------	---

教育サービスを行っている付属施設	技術開発センター，未来技術流動研究センター，マルチメディアセンター
------------------	-----------------------------------

学生総数 2,118 名（平成 13 年 5 月）

教員総数 223 名（平成 13 年 5 月）

上記のごとく、本学における教育サービスは技術開発センター，未来技術流動研究センター，マルチメディアセンターの三つのセンターによって分担されているが、なかでも技術開発センターが中心的な活動を行っている。技術開発センターは本学の産学交流・社会との連携の拠点であり、民間企業等との共同研究を推進する場として昭和 55 年に設置された。教育サービスによる社会貢献活動に対しても中心的役割を担っており、社会人技術者・研究者に対する各種の研修会やセミナーなどを企画・実施している。

資料 O-1 として豊橋技術科学大学概要 2001 を添付する。

2. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

本学は開学当初から、実践的技術の開発を主眼とした教育研究を行っており、学外機関との交流、民間企業等との共同研究あるいは地域社会との協力事業を積極的に推進してきた。このように社会との連携を重視することは本学の特質の一つであり、教育サービス面においても多様な活動を通して社会的寄与に努力している。市民の教養を高め、地域の文化向上に貢献すること、および本学で研究取得された知見や技術等を公開・教授し、企業技術者の技能を高め、地域の技術的活性化を図ることは本学の重要な社会的責務であると考えている。また、これらの行動を通して、開かれた大学として地域住民に親しまれる存在となることが志向されている。

本学における社会に対する教育サービス活動は、以下に示すように四つに分類される。活動の開始時期を()内に示す。

(A) 一般市民に対する教育サービス

(A-1) 公開講座 (昭和 53 年度)

(A-2) オープンキャンパス (大学公開日) (昭和 59 年度)

(A-3) 大学等地域開放特別事業「土曜日はみんな 1 日大学生」(平成 11 年度)

(A-4) 図書館の開放 (平成元年度)

(B) 社会人技術者に対するリフレッシュ教育

(B-1) 科目等履修生制度 (平成 5 年度)

(B-2) 衛星通信公開講座 (平成 8 年度)

(B-3) ミニ大学院アフターファイブコース(昭和 63 年度)

(B-4) 技術者養成研修(平成 2 年度)

(C) 社会人技術者に対する技能研修

(C-1) 技術セミナー(昭和 59 年度)

(C-2) 集積回路技術講習会(昭和 56 年度)

(C-3) 特許セミナー(平成 11 年度)

(C-4) 産学官交流サロン (昭和 59 年度) 及び TSC (豊橋サイエンスコア) クラブ技術交流会 (平成 4 年度) への講師派遣

(D) 高等専門学校及び工業高校への教育サービス

(D-1) 高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会(平成元年度)

(豊橋技術科学大学)

(D-2) 工業高等学校教員向け技術講習会(昭和 63 年度)

(D-3) 高等専門学校への遠隔授業(平成 4 年度)

(D-4) 高等専門学校学生の体験学習(平成 11 年度)

本学は国際協力事業団 (JICA) を通して , インドネシア , タイ等の東南アジア諸国及びサウジアラビアの工業高等教育のレベル向上に対し活発な援助を行ってきた。本学の行う教育サービス面における社会貢献の一つとして , この高等教育開発に関する国際協力を加えることもできるが , 国際協力関係の取組は次年度以降に全学テーマとして取り上げられるので , その際に記述することとし , 今回の教育サービスの中には含めないことにする。

3. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

(1) 目的

本学は、前節「2. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方」に示したように多種多様な教育サービス活動を行っている。これらの活動に対し統一的な目的を設定することはやや困難であるが、東三河地区における唯一の国公立大学として、知識・学問や、技術情報の地域に対する発信元となり、地域住民にとっても有用であり、親しまれる開かれた大学になることが豊橋技術科学大学における教育サービスの目的としてあげられる。

一般社会人にとっても有用で、親しまれる大学になるためには、多様な学外者に対してその人達が必要とする情報を提供せねばならない。前節において、本学の行う教育活動を整理・分類したが、次にこの分類にしたがって、それらの活動において提供されるべき情報の種類、および期待される成果について述べる。

(A) 一般市民に対する教育サービス

「公開講座」や「オープンキャンパス」で代表されるように、小・中・高校生を含む一般社会人の教養、勉学意欲を高めることを目的とする活動で、親しみやすい“一般教養的な知識・情報”の提供が望まれる。また、このような活動ではできるだけ多くの参加者を集め、本学への理解と親近感を社会に広めることも目的の一つである。

(B) 社会人技術者に対するリフレッシュ教育

「科目等履修生制度」や「ミニ大学院アフターファイブコース」で代表され、主として社会人技術者に対してリフレッシュ教育を施すことを目的とする活動である。“工業技術のベースとなる基礎知識や学問”が教授される。

(C) 社会人技術者に対する技能研修

「技術セミナー」や「集積回路技術講習会」がその典型的な例で、社会人技術者の専門的技能の向上、企業の技術的活性化を目的とする活動である。“本学で研究・開発された技術、知見など”を社会に伝達する。

(D) 高等専門学校及び工業高校への教育サービス

高等専門学校及び工業高校と密接な関係にある本学においては、高等専門学校あるいは工業高校の教官に対し、“教育活動を充実させるための情報”を提供することは重要な教育サービス活動の一つである。

(2) 目標

本学が教育サービスの対象とする地域住民は一般市民と企業技術者に大別することができる。一般市民に対する教育サービスにおいては、前述のごとく、親しみのもてる一般教養的なトピックスが適している。一方、企業技術者に提供される情報は二つに分かれる。その1は研究・開発の基礎となる学問や技術であり、その2は最新の研究・技術情報である。これら技術者に対する教育活動においては単なる講義や講演だけでなく、コンピュータその他の機器による実習を伴った研修会や討論会等も有効であり、工学系単科大学である本学が最も力を入れている教育活動である。このような企業技術者との接触は、本学が重視している産学共同による研究・技術開発を円滑化する効果をもつものと思われる。

本学が広く親しまれる開かれた大学になるためには、地域住民との数多くのコミュニケーションの機会を作り、各種活動においてできるだけ多くの参加者を集める必要がある。本学は小規模な大学であり、大規模な活動を実施することは困難である。しかし、東三河地区に数少ない工学系大学である豊橋技術科学大学への周囲の期待を満たすためには、バランスのとれた十分な規模の教育サービスが必要であると考ええる。

以上、本学の実施する教育サービス活動の全体的な目標は、次のようにまとめることができる。

ア 多様な社会人を対象にし、その人達が必要とする情報を提供する。

イ 活発な活動によって地域住民との数多くのコミュニケーションの場を作る。

ウ 多くの参加者を集める。

また、個々の教育活動の目標は以下の通りである。

(A-1) 公開講座：市民の教養を高め、地域の文化向上に寄与する。

(A-2) オープンキャンパス(大学公開日)：本学と市民とのコミュニケーションの機会を提供する。

(A-3) 大学等地域開放特別事業「土曜日はみんな1日大学生」：市民若年層への大学紹介及び勉学意欲の増進。

(A-4) 図書館の開放：市民の生涯学習、リフレッシュ教育への寄与。

(B-1) 科目等履修生制度：リフレッシュ教育への便宜を図る。

(B-2) 衛星通信公開講座：遠隔地でも受講可能な形で技術情報の伝達を図る。

(B-3) ミニ大学院アフターファイブコース：大学院レベルの講義によって企業等の技術

(豊橋技術科学大学)

者に対し高度リフレッシュ教育を施す。

(B-4) 技術者養成研修：企業等の技術者を対象にして，知識や技術の学習による能力アップを図る。

(C-1) 技術セミナー：技術者に対して先端技術の紹介を行い，地域産業の活性・発展に寄与する。

(C-2) 集積回路技術講習会：社会人技術者を対象に，集積回路製作プロセスを実技実習を通して学習させる。

(C-3) 特許セミナー：産学官連携による技術移転の活性化。

(C-4) 産学官交流サロン及び TSC クラブ技術交流会：東三河地域産業の活性化。

(D-1) 高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会：高等専門学校における情報処理教育の充実。

(D-2) 工業高等学校教員向け技術講習会：工業高校における技術教育のレベルアップを図る。

(D-3) 高等専門学校の遠隔授業：高等専門学校専攻科における教育への援助。

(D-4) 高等専門学校学生の体験実習：高等専門学校におけるインターンシップ制度への援助。

(豊橋技術科学大学)

4. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

教育サービス面における社会貢献に関する個々の取組についてのリストは「2. とらえ方」に、その目標は「3. 目的及び目標」の「目標」に示した。本章「4. 取組の現状」として、以下に個々の活動ごとの概要を記述する。

(A-1) 公開講座

一般市民を対象とした親しみやすいテーマによる公開講座で、夜間を利用して、年1回、100分の講演を6～9回開講している。実施状況を資料 A-1-1 に、案内及びテキストの一例を資料 A-1-2 と資料 A-1-3 に示す。

(A-2) オープンキャンパス(大学公開日)

日曜日に1日大学を開放し、体験学習・研究室公開及び高校生向けの大学・入試案内等を行っている。平成11年度に名称を「大学公開日」から「オープンキャンパス」に変更し、内容も変えた。実施状況を資料 A-2-1 に、案内パンフレットを資料 A-2-2 に示す。

(A-3) 大学等地域開放特別事業「土曜日はみんな1日大学生」

年3回小・中学生及びその保護者を対象に、大学を開放して数多くの楽しい体験学習授業を提供している。案内パンフレットを資料 A-3-1 に、成果報告書を資料 A-3-3 に示す。

(A-4) 図書館の開放

市民に対する開館時間は平日の9時から20時までと、土曜日の13時から17時までである。学外者の使用実績を資料 A-4-1 に示す。

(B-1) 科目等履修生制度

社会人に対するリフレッシュ教育の一環として、平成5年度から学部開講科目の履修を受け付けている。受け入れ状況を資料 B-1-1 に示す。

(B-2) 衛星通信公開講座

アナログ通信衛星(スーパーバードA号)を利用した公開講座である。マルチメディアセンターと技術開発センターが共同で試行的に実施している。実施状況を資料 B-2-1 に、案内パンフレットを資料 B-2-2 に示す。

(B-3) ミニ大学院アフターファイブコース

企業等の技術者に対するリフレッシュ教育で、大学院レベルの講義を週1回、6～8週にわたって夜間に開講している。実施状況を資料 B-3-1 に示す。

(B-4) 技術者養成研修

(豊橋技術科学大学)

企業等の技術者を対象にして実験・実習主体の2～3日間の研修会を開催している。実施状況を資料 B-4-1 に示す。

(C-1) 技術セミナー

社会人技術者を対象としたセミナーで、先端技術に関する三つの講演で構成される。平成10年までは毎年1回行ってきたが、平成11年からは隔年実施に変更した。実施状況を資料 C-1-1 に示す。

(C-2) 集積回路技術講習会

社会人技術者を対象にした集積回路製作に対する講習会である。集積回路製作プロセスを実技実習を通して6日間で学習する。企業参加の状況を資料 C-2-1 に、案内を資料 C-2-2 に示す。

(C-3) 特許セミナー

特許出願の実務知識の普及と大学からの技術移転の活性化に関連してセミナーを開催している。実施状況を資料 C-3-1 に示す。

(C-4) 産学官交流サロン及び TSC クラブ技術交流会

両事業とも月1回開催される講演会で、主催はそれぞれ東三河懇話会及び TSC クラブであるが、本学が毎回講師を派遣している。講師派遣の状況を資料 C-4-1 及び資料 C-4-2 に示す。

(D-1) 高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会

高等専門学校の情報処理教育担当の教員に対し、本学教官が講師になって情報処理に関する知識と技術を、夏休みを利用して、3週間に渡って教授する。講習会の実施状況及び内容を資料 D-1-1、資料 D-1-2 に示す。

(D-2) 工業高等学校教員向け技術講習会

年毎に専門分野を設定し、近年の技術的問題や技術教育について、講義やパネルディスカッションを行っている。実施状況を資料 D-2-1 に示す。

(D-3) 高等専門学校への遠隔授業

高等専門学校専攻科への援助を主たる目的として、豊田、岐阜、鈴鹿の3高専に対し ISDN 回線を用いた講義・講演の配信を行っている。配信事業一覧を資料 D-3-1 に示す。

(D-4) 高等専門学校学生の体験実習

高専におけるインターンシップ制度への援助のため、夏休みに1～2週間高等専門学校

（豊橋技術科学大学）

学生を受け入れ，実験などの体験実習を行わせる。実習生受け入れ状況及び募集案内を資料 D-4-1，資料 D-4-2 に示す。

5. 評価項目ごとの自己評価結果

(1) 目的及び目標を達成するための取組

本学における教育サービスの目的及び目標については「3. 目的及び目標」で詳しく述べたが、以下においては、これらをまとめ、次に示す三つの目的及び目標を用いて自己評価を行う。

ア 一般市民の教養を高め、地域の文化向上に寄与する。

イ 社会人技術者の技能向上及び最新技術情報の習得を図り、企業等の活性化に寄与する。

ウ 本学に対する地域住民の理解を深め、開かれた大学を目指す。

[目的及び目標 ア について]

一般市民の教養を高め、地域の文化向上を目標とする活動としては、「2. とらえ方」に示す分類(A)の四つの取組があげられる。そこで、以下に分類(A)の活動について、観点を定めて評価する。

観点(1) 目的及び目標を達成するのに適した種類の活動が提供されているか。

「公開講座」は6～9回の講義で構成されており、成人を対象にしている。「オープンキャンパス」は高校生を主たる対象とし、大学入試を念頭において体験学習・研究室公開などが行われる。「土曜日はみんな1日大学生」はユニークな企画であり、小・中学生及びその保護者を対象に、遊びの要素を組み込んだ体験学習講義を提供している。したがって、これら三つの活動でほぼすべての年齢層をカバーすることになり、活動形態も各年齢層に適合したものになっている。

観点(2) 目的及び目標で意図された内容が提供されているか。

「公開講座」においては、資料A-1-1の実施状況に見られるごとく、工学系単科大学であるという本学の特色を生かした親しみやすいトピックス的なテーマを提供しており、科学技術の啓発を促すという意図はほぼ満足している。また、「土曜日はみんな1日大学生」においては、小学生にもわかりやすい、楽しい授業が行われており、アンケート結果(資料A-3-2)でもわかるように大変な好評を得ている。

(豊橋技術科学大学)

観点(3) 目的及び目標を達成するために十分な規模の活動が行われているか。

観点(1)の評価において述べたごとく、活動(A-1),(A-2),(A-3)によって地域住民の全年齢層をカバーしている。「公開講座」は年1回ではあるが、1日につき100分講演を1回、6～9日間にわたって実施しており、内容は濃い。また、「土曜日はみんな1日大学生」は年3回開催しており、15～20の講義を午前と午後の2回実施している。これらの点を考えると、一般市民の教養向上のために本学が行っている教育サービスは、規模においては適正であると考えられる。

観点(4) 各活動のPRの範囲、方法は適切か。

「公開講座」は、主に本学の公式ホームページからの発信及びパンフレット・ポスター等によりPRしているが、より広く市民に参加してもらうために、豊橋市の後援を得て市民向け広報誌への掲載及び市の各施設、新聞社、高等学校、商工会議所、豊橋駅、書店等へもPRしている。併せて、近隣の市町村へもPRしている。「公開講座」の対象者が高校生以上の者(主に成人)を対象にしていることから、PR方法は適切であると考えられる。

「オープンキャンパス」は、より若い層に本学をPRするために「公開講座」のPR方法に加えて、豊橋市の小・中学校、東海地区の高等専門学校・高等学校等にパンフレットを配付している。また、児童・生徒の父兄等への周知の方法としては、豊橋市の各町内へパンフレットを配付している。さらに、平成11年には、地元のラジオ放送局から参加を呼びかけた。平成11、12年度の参加者数が平成10年度に比べ約4～5倍の増加を示していることからみてもPR方法としては、適切であったと考えられる。

大学等地域開放特別事業「土曜日はみんな1日大学生」は、対象者が小・中学生であることから、豊橋市内の4年生以上の小学生全員と中学生全員にパンフレットを配付している。「オープンキャンパス」と同様に平成11年には、地元ラジオ放送局から参加を呼びかけた。予定の参加者を満たしていることから、PR方法は適切であると考えられる。

観点(5) 実施時期、時間帯等の配慮がなされているか。

「公開講座」は週1～2回、夜間の6:20～8:00に開講されており、企業などに勤める人達にも参加しやすい時間帯であると思う。また、学生を主たる対象とする「オープンキ

(豊橋技術科学大学)

キャンパス」,「土曜日はみんな1日大学生」はそれぞれ夏休み中の日曜日及び土曜日を開催日としており,参加に対する便宜は十分に配慮されている。

[目的及び目標 イ について]

社会人技術者に対する教育サービス活動は,「2.とらえ方」に示す分類(B)及び(C)に示されたものである。以下に分類(B)及び(C)の活動について,観点を定めて評価する。

観点(1) 目的及び目標を達成するのに適した種類の活動が提供されているか。

「ミニ大学院アフターファイブコース」や「技術セミナー」のような通常の講義・講演形式の活動や,「技術者養成研修」や「集積回路技術講習会」のように実験・実習を主体にする活動の他に,「科目等履修生制度」,「衛星通信公開講座」,外部講演会への講師派遣など,本学の実施する教育サービス活動にはさまざまな形がある。工業技術教育には実技指導が特に有効であるが,「集積回路技術講習会」は集積回路製作の全工程を大学にある施設を利用して実習し,その基礎技術を習得させるものである。昭和56年度から毎年開催されており,受講者は既に331人に達している(資料C-2-1,C-2-2)。この活動により日本工業教育協会から業績賞(平成7年度)を受賞した。

また,学外組織によって開催される「産学官交流サロン」及び「TSCクラブ技術交流会」への講師派遣は17年間にわたり,それぞれ既に197回,103回に達しており,地域の技術的活性化に大いに寄与している。

観点(2) 目的及び目標で意図された内容が提供されているか。

分類(B)の四つの活動はリフレッシュ教育による技能向上を目標としている。なかでも「ミニ大学院アフターファイブコース」と「技術者養成研修」は企業技術者の基礎的技能向上を目指して特別に企画したものであり,後者は基本的素養を,前者はやや専門的素養の教授を意図している。両活動に対する実施状況(資料B-3-1,B-4-1)及びアンケート集計結果(資料B-3-2,B-4-2)を見ると,テーマの選択は妥当であり,意図はほぼ達成されているといえよう。

分類(C)の四つの活動は最新技術情報の提供を意図している。そのなかで,「技術セミ

(豊橋技術科学大学)

ナー」は学外からの講師による講演を主体とするセミナーで(資料 C-1-1)、本学の教官ではカバーできない分野が取り上げられ、アンケートにおける受講者の評判も良い(資料 C-1-2)。

観点(3) 目的及び目標を達成するために十分な規模の活動が行われているか。

リフレッシュ教育について四つ、最新技術に対する啓発についても四つの活動が行われており、活動の規模としては十分であろう。本学は技術者への教育サービスに特に力を入れているが、大学の規模を考えたとき、この活動状況はやや過多になりつつあると思われる。学外への教育サービスの規模は大学の本務である学生への教育及び研究とのバランスの上で考えるべきであり、開学 20 年を過ぎ、活動の全体的な調整が必要であると考えられるため、後述の対外事業部会で検討を進めている。

観点(4) 各活動の PR の範囲、方法は適切か。

「ミニ大学院アフターファイブコース」及び「技術者養成研修」は、受講対象者が地域企業等の技術者・研究者であることから、過去に参加のあった企業及び参加者、企業の研究部門、近隣の商工会議所等を中心として、市内の普通高校・中学校及び東海地区の工業高校へパンフレットを送付している。また、平成 11 年には、地元のラジオ放送局から参加を呼びかけた。受講対象者からみて PR の方法は適切であると考えられる。

「技術セミナー」は、その性質上、上記と同様に過去の参加者及び近隣の商工会議所等にパンフレットを送付していることに加えて、広く周知するため、新聞にパンフレットを折り込み、周知を図っている。また、平成 12 年には、地元のラジオ放送局から参加を呼びかけた。より広く広報する手段としては、適切であると考えられる。

観点(5) 実施時期、時間帯等の配慮がなされているか。

技術者への教育サービス活動は、「ミニ大学院アフターファイブコース」を除くと、昼間の時間に実施されている。アンケート結果を見ると、これらの教育サービスへの参加者は勤めている企業から勧められて、受講料も企業負担で参加している場合が多い。したがって、出張扱いで参加している人が多いと考えられ、週日の昼間に実施することには支障がないと思われる。技術者への教育活動は長時間にわたることが多く、夜間や土・日曜日の

(豊橋技術科学大学)

実施よりは、昼間に長時間かけて実施するほうが有効である。

[目的及び目標 ウ について]

目的及び目標 ア , イ の達成はおのずと目的及び目標 ウ の達成につながる。すなわち、一般市民の教養を高め、地域の文化向上に寄与すること、社会人技術者の技能向上及び最新技術情報の修得を図り、企業等の活性化に寄与することは、とりもなおさず地域住民の本学に対する理解を促し、開かれた大学へとつながるものと思われる。したがって、目的及び目標 ウ についての評価は ア , イ に対するもので替える。

目的及び目標 ウ に対するより直接的な取組として「オープンキャンパス」と「土曜日はみんな1日大学生」がある。「土曜日はみんな1日大学生」が特色ある効果的な事業であることは前に述べたが、「オープンキャンパス」も平成 11 年度に「大学公開日」から名称を変更、内容をそれまでの単なる受験生向け大学公開から、対象を若い年齢層やその保護者にまで広げて、大学の内容を理解してもらうように変更した。その結果、参加者数は平成 10 年度の 145 名から平成 11, 12 年度の 722 名, 530 名と増加し、活気のある催しにすることができた。

[水準を分かりやすく示す記述]

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

(2) 目的及び目標の達成状況

本項目「目的及び目標の達成状況」は、前述の三つの目的及び目標について一括して評価する。

観点(1) 各活動のサービス享受者は目的及び目標で意図した対象に合致しているか。

各活動における参加者がどのような人達で占められているかは、それぞれのアンケート結果を見ることによって知ることができる。「オープンキャンパス」は参加者のほとんどが高校生であり、「土曜日はみんな1日大学生」は小・中学生と父または母のペアで参加しているのは、その目的から当然であろう(資料 A-2-3, A-3-2)。「公開講座」は、市民の広い層への科学技術の啓発を目的としているが、アンケート結果(資料 A-1-4)を見ると事務系あるいは、女性の参加者の比率が少ないのが目に付く。今後これらの層へのPRに留意すべきである。

技術者を対象にした教育サービス、たとえば「ミニ大学院アフターファイブコース」、「技術者養成研修」、「技術セミナー」、「集積回路技術講習会」等は、参加者の大部分が企業等の技術者で、対象として当初意図した受講者が得られていることがわかる(資料 B-3-2, B-4-2, C-1-2, C-2-1)。

観点(2) サービスの利用者数等は十分なものとなっているか。

分類(A)の活動においてはできるだけ多くの参加者を得ることが望ましい。「公開講座」についてはその実施状況(資料 A-1-1)を見ると、多くの場合受講者数はほぼ定員を満たしているといえる。「オープンキャンパス」は平成11年度722人、平成12年度530人の参加者を得ており(資料 A-2-3)、十分であろう。「土曜日はみんな1日大学生」も資料 A-3-2を見ると、予定の参加者数をほぼ満たしているといえる。

分類(B),(C)にある技術者に対する教育活動における参加者数を見ると、実施年度によって変動が大きく、著しく少人数になることも認められる。これはテーマの選択による影響であると考えられるが、参加者が少なくても必要なテーマもあるので、一概に受講者が少ないからといって企画が悪いと評価すべきではない。

観点(3) サービス享受者の満足度は十分なものといえるか。

(豊橋技術科学大学)

参加者の満足度を知ることは困難であるが、アンケートなどから推測してみる。「公開講座」については、夜間6:20～8:00の講義が6～9日間行われ、受講することはなかなか困難であると思われる。にもかかわらず、過去に5回、6回と参加した受講者が相当数いるということは(資料 A-1-4)、内容への満足を示すものであると思われる。また、「土曜日はみんな1日大学生」はわかりやすく面白い講義が好評で、子供、保護者とも大いに満足しているように見られる(資料 A-3-2)。技術者に対する教育サービスは受講者の仕事に関係したテーマを選んで参加する 경우가多く、満足度は高いと推測される。

観点(4) 出席率、修了率等の状況から判断して、目的及び目標で意図した成果はどの程度達成されているか。

「公開講座」は出席率76%程度、修了率80%程度(9回のうち6回以上の出席をもって修了)(資料 A-1-4)、「ミニ大学院アフターファイブコース」は出席率85%程度、修了率85%程度であり(資料 B-3-1)、この二つの活動については意図した成果の達成度は高いと判断される。

[水準を分かりやすく示す記述]

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

(3) 改善のためのシステム

本項目「改善のためのシステム」も、三つの目的及び目標について一括して評価する。

観点(1) 活動の状況や問題点を把握する体制やシステムが整備され、機能しているか。

分類(B)及び(C)の技術者に対する教育サービスについては、先に述べたごとく、そのほとんどを技術開発センターが企画・実施しているが、アンケート結果の検討等を通して活動の状況や問題点の把握をも行う。分類(A)の一般社会人への教育サービスは各々の活動に対して実施委員会を組織し、上記一連の作業を実施している。このように個々の活動に対しては技術開発センターあるいは各実施委員会がその状況や問題点の把握を行っているが、全体的な検討や総括は総務会に設置された専門部会の一つである対外事業部会で行われる。このシステムは個々の実施形態や内容の決定等にはよく機能してきたと思われる。しかしながら今後は、教育サービス面における社会貢献の取組全般にわたり、さらなる検討と改善に務める必要があると思われる。

観点(2) 学外者の意見(社会のニーズ、サービス享受者の意見)等を把握する体制やシステムが整備され、機能しているか。

学外者の意見に対する最大の情報源は活動終了時に実施されるアンケートである。本学においてはほとんどすべての教育サービス活動に対して毎回アンケートがとられており、次の回のテーマ決定や、実施に対する反省資料として、大いに役に立っている。また、大局的観点から見た意見の収集機会として、運営諮問会議及び外部評価委員会における指摘は有効である(資料O-2, O-3)。

観点(3) 把握した問題点や学外者の意見等を改善に結びつける体制やシステムが整備され、機能しているか。

観点(1),(2)で述べた情報収集の体制やシステムの大部分は、本学の場合、同時に活動の改善・実行のシステムにもなっている。現時点ではこの体制で支障はないように思われる。

[水準を分かりやすく示す記述]

（豊橋技術科学大学）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。

6 . その他

分類 (D) , 「高等専門学校及び工業高校への教育サービス」はその他の教育サービスと趣が異なるため , 「 5 . 評価項目ごとの自己評価結果」では対象としなかった。しかし学生のほぼ 80 % を高等専門学校から 3 年次編入で受け入れる本学にとって , 「高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会」 , 「高等専門学校への遠隔授業」 , 「高等専門学校学生の体験学習」は重要な教育活動である。これらの教育サービスは受け手である高等専門学校側の事情や希望を理解し , 十分な打ち合わせの上で実施せねばならない。「高等専門学校学生の体験学習」は前述のごとく高専におけるインターンシップ制度への援助として平成 11 年度から開始された活動であるが , 評判がよく , 受け入れ学生数も急激に増加している。大学の受け入れ態勢等にまだ若干の問題があり , 今後さらに実施方法に対する検討が必要である。

(豊橋技術科学大学)

根拠資料一覧

資料	O-1	豊橋技術科学大学概要 2001
資料	O-2	豊橋技術科学大学 運営諮問会議報告書
資料	O-3	豊橋技術科学大学 外部評価報告書
資料	A-1-1	公開講座実施状況
資料	A-1-2	平成 12 年度公開講座のご案内
資料	A-1-3	平成 12 年度公開講座テキスト クローズアップテクノロジー「現代と未来のニューマテリアルズ」
資料	A-1-4	公開講座のアンケート集計結果
資料	A-2-1	大学公開日/オープンキャンパス実施状況
資料	A-2-2	第 17 回オープンキャンパス案内
資料	A-2-3	大学公開日/オープンキャンパスのアンケート集計結果
資料	A-3-1	土曜日はみんな 1 日大学生—小・中学生対象親子体験授業案内
資料	A-3-2	小・中学生対象親子体験授業のアンケート集計結果
資料	A-3-3	土曜日はみんな 1 日大学生 成果報告書 2001 年
資料	A-4-1	図書館年間利用統計
資料	B-1-1	科目等履修生受入状況
資料	B-1-2	科目等履修生リスト
資料	B-2-1	衛星通信公開講座実施状況
資料	B-2-2	平成 12 年度衛星通信公開講座案内
資料	B-2-3	衛星通信公開講座のアンケート集計結果
資料	B-3-1	ミニ大学院アフターファイブコース実施状況
資料	B-3-2	ミニ大学院アフターファイブコースのアンケート集計結果
資料	B-4-1	技術者養成研修実施状況
資料	B-4-2	技術者養成研修のアンケート集計結果
資料	C-1-1	技術セミナー実施状況
資料	C-1-2	技術セミナーのアンケート集計結果
資料	C-2-1	集積回路技術講習会参加企業名
資料	C-2-2	第 20 回集積回路技術講習会案内

(豊橋技術科学大学)

資料	C-3-1	特許セミナー実施状況
資料	C-4-1	産学官交流サロンへの講師派遣
資料	C-4-2	TSC クラブ技術交流会への講師派遣
資料	D-1-1	高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会実施状況
資料	D-1-2	高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会実施内容
資料	D-1-3	高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会のアンケート調査結果
資料	D-2-1	工業高等学校教員向け技術講習会実施状況
資料	D-3-1	3 高専向け ISDN 配信事業一覧
資料	D-4-1	高専からの体験実習生（夏季）の受入状況表
資料	D-4-2	平成 12 年度体験実習生の募集案内